臨床実習終了後 OSCE　信州 SP 研究会との反省会

日　時：平成 29 年 7 月 24 日（月）
　　16：00-17：00
場　所：基礎棟 5 階第二会議室
出席者：信州 SP 研究会員 22 名
　　医学教育センター教員 3 名

試験当日に行った SP 会員へのアンケート結果をもとに、意見交換を行った。

（SP 会員からの意見）
SP から学生への評価の「コミュニケーション」「目を合せる」などの評価項目は、初対面同士の医者と患者としては、評価が難しい項目である。「良い」とつけるしかできない。
（医学教育研修センターから回答）
SP 会員による評価のみで不可となることのない採点方法を取っている。学生のためにも、感じたままを評価してほしい。

（SP 会員からの意見）
12 分未満に終了した場合も、SP は退室せずに在室するように指導してほしい。
12 分未満に終了した学生が上級医への報告書を作成し始めることがあった。
病名診断をした後は、患者役に全く関心を払わず、SP の退室前に上級医への報告書を作成し始めた学生がいた。
（医学教育研修センターから回答）
課題を終了次第、学生が報告書の作成に取りかかりたくなるのは致し方ない。来年度も同様の課題が機構から出された場合は、対策を考えたい。

（SP 会員からの意見）
学生に対して、話の内容に偏りが無いようにより一層の SP 会員の均一化を図りたい。
教員から SP 会員に対して、もっと個別の指導をしてほしい。
SP 個人個人への指導が無いと均一化が図られない。
SP の評価（話し過ぎ、話さな過ぎ、など）があっても良いのではないか。
等の建設的な意見要望が出された。
（医学教育研修センターから回答）
SP さんから提案があった「評価者による SP 会員の評価」について、次の 9 月の 4 年生共用試験 OSCE で試みてみたい。

（SP 会員からの意見）
役割別（SP ごと、患者役学生ごと）に控室が用意されたが、打ち合わせの利便性などを考慮すると、課題ごとの控室の方が良いのではないか。
（医学教育研修センターから回答）
学生と患者役学生が顔見知りになり、今後の試験に影響が出るのではないかとの懸念があるが、今後、検討したい。（この懸念に対し、SP さんからは、滅多に顔を合せないので、顔や名前まで覚えていないため、その懸念は不要ではないか、と意見があった。）

以上